

70M レンジ新設要望書

発信人： 60代主将 高橋尚斗

1) 経緯

70m レンジの設置についての検討は1代前の59代から検討されていた。70m をうつ場合はしあわせの村まで行くか(使用料と交通費が生じる)、一王山レンジを貸していただくしかない(ご厚意で使わせていただくのでご迷惑をおかけしてしまう)と非常に不便であり手軽に練習することはできなかったからである。しかしながら、コロナウイルスの影響により進めることができず検討段階のまま代替わりを迎えた。60代では1回生に経験者が3名入っており、うち2名は国体への参加意欲があるため70m レンジの設置を強く希望している。

2) 70m レンジが必要な理由

2-1) 昨今のリーグ戦の動向

現在リーグ戦は50m-30mのSHの形式で開催されているが、2021年11月の定時総会において関西学連から新形式でのリーグ戦のプラン案が出された。理由として、王座での関西地区の大学の成績が芳しくないことが上げられていた。また背景には、世界レベルや日本全国レベルの試合でも70mWが主流であることも少なからずあるように思われる。試合形式を70mWに近づけるために、リーグ戦のプラン案として70mを各校代表数人がうつプランも見受けられ、今後もリーグ戦等の学連の試合が70mにシフトしていくことは十分にあり得る。

2-2) 現在の多くの試合形式の主流が70mWであること

夏の関西個人決勝でも予選はSHの形式だが、上位に入ると70mWの試合が次に控えている。また、国体予選や記録会、その他多くの試合でもほとんどが70mWを採用している。高校生の試合でも70mWがメインである。この状況で神戸大学に70mレンジがないのは大きなハンデを背負っているように感じる。

今年入部した経験者の1回生2名は来年の国体や全日にも意欲的に参加するつもりであり、彼らがより一層活躍するためにも70mレンジの設置は必要であると言える。また未経験者でも関西個人決勝出場の際に70mの経験の有無は非常に大きな要素となるのではないかと考える。

2-3) 70mレンジ設置により得られる恩恵

対面授業の再開や、外部レンジへの交通費や手間を考えると70mレンジ設置により得られる恩恵は非常に大きいと考えられる。また、50mとは別の距離の70mを練習することで、50mの点数が上がることも考えられるのではないかと思う。

3)70m レンジ候補地について

3-1) 鶴甲第1キャンパス体育館裏の敷地(図1中の3-1)

70m をうつには十分な距離がある。脚は1つ(ぎりぎり2脚おけるかおけないくらい)おけるくらいの横幅である。そのためのは1つあるいは2つ設置可能であると考えている。1回に3,4人くらいSLに立つことが想定される。周囲に人が立ち寄らずまた山の斜面に囲まれており、アーチェリーレンジとしては良い立地であると思われる。

問題点としては、地面の土が非常に軟らかいこと、水はけが悪いこと、日が暮れると非常に暗いため照明が必須であること、イノシシが出没していることがあげられる。木も生えており、整地はする必要がある。体育館裏なので、体育館から人が出てこないように事前に通知も必要であるし、防矢ネットの設置も必須である。一応倉庫などがあるので、使用しているのか、人が立ち入るのかは安全面の観点から確認しておく必要はある。

一度学生支援課の課外活動担当の方とお話したところ、使用していない敷地の有効利用であれば歓迎という印象であった。

3-2)鶴甲第1キャンパスグラウンド(図1中の3-2)

70m をうつ距離やSL幅は広く十分である。グラウンド利用は体育会を通して利用日時が割り振られるので、常設というわけにはいかそうである。洋弓部には専用の練習場があることを鑑みると、他の部活へ割り振られた後、空いている時間帯を使うのが一番スムーズであると思われる。授業期間の空いている時間は平日の昼過ぎあたりが多く見受けられ、他の時間帯は埋まっていることが多かった。長期休暇になるともっと空き時間は少なくなるかもしれないので、ここでの練習は厳しいかもしれない。

一度学生支援課の課外活動担当の方とお話したところ、人工芝を傷つけないようにするのであれば使用可能とのことだったが、どの向きに行射するのか等安全面については検討が必要である。過去には東に向かって行射していたことがあったようだが、マンションもあるため少し厳しいかもしれない。



図 1. 70m レンジ候補地マップ

(出典 : <https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/turukabuto-dai1.html>)



图 2. A 地点



图 3. B 地点



图 4. C 地点



图 5. D 地点



图 6. E 地点

2021 年 11 月定時総会資料

リーグ戦のあり方の見直しについて

関西学生アーチェリー連盟

2021 年 5 月の定時総会にて加盟校からリーグ戦に対する提言をいただき、本連盟内で検討を進めてきた。その中で、リーグ戦を取り巻く現状の分析を行い、提言の内容以外にもリーグ戦のあり方そのものの見直しを進めることとし、リーグ戦の開催形式に関する新たなプラン案を提示するに至った。

従って、本議題における議論事項は以下の 3 点となる。(各議論事項の内容は別添に示す。)

【次回リーグ戦から反映する事項】

- 1) チーム編成人数の見直しについて
- 2) 1 部リーグ・2 部リーグのブロック制の廃止について

【次々回（2023 年）から反映する事項】

- 3) リーグ戦の開催形式の見直しについて

なお、本議題について、今回の定時総会では決議を取らない。今回は加盟校とオープンな議論を行い、各加盟校内でも検討していただいた上で、2022 年 2 月開催予定の定時総会にて決議を取る予定としている。

ただし、2021 年 5 月の定時総会にて提言いただいた事項（議論事項 1）及び 2）については、加盟校の了承があれば今回で決議を取ることも可能とする。

以上

(別添)

1) チーム編成人数の見直しについて

内部調査において、現行のチーム編成人数(男子8名、女子5名)でリーグ戦参加が見込める大学は加盟校29校中男子12校、女子14校と推測される。チーム編成人数を「男子6名、女子4名」とすると男子16校、女子15校の参加が、「男子5名、女子3名」とすると男子18校、女子18校の参加が可能と推測される。このような状況から、学連としては、チーム編成人数を「男子6名、女子4名」あるいは「男子5名、女子3名」へ変更することは可能と考えている。

2) 1部リーグ・2部リーグのブロック制の廃止について

人数が減っている現状に対して、ブロック制を廃止することがメリットになるとは考えにくい。よって、学連としては、現行のブロック制を維持することを考えている。

3) リーグ戦の開催形式の見直しについて

以下の4つのプラン案を提示する。

① 70mによる王座選考会(リーグ戦廃止)

リーグ戦を廃止し、70mラウンドによる王座決定戦の選考会を行う。

試合形式は、王座決定戦の予選ラウンドと同様の形式とし、1チーム4名、上位3名の合計点で順位を決める。

予選会 + 本戦の2段階で行い、前年度本戦の上位6校は予選シードとする。

② マッチ戦を複合させた団体戦によるリーグ(70m)

「1. 個人マッチ戦I、2. 団体マッチ戦、3. 個人マッチ戦II」の全3マッチで対戦し、勝利数の多い大学を勝ちとする。

1. ~3. にそれぞれ別の選手がエントリーする。(1大学5人エントリー)

各マッチは全日本アーチェリー連盟競技規則に則って行う。

70mが行射可能なレンジにて開催する。(1レンジで複数対戦を同時開催)

③ 50mWでのリーグ戦

現行の50・30mを50mWに変更する。その他のルールは現行の形とする。

人数、ブロック制については、提言いただいた部分の結論を反映する。

④ 現行のリーグ戦を維持する

人数、ブロック制については、提言いただいた部分の結論を反映する。